

厚生労働科学研究費補助金（厚生労働科学特別研究事業）  
分担研究報告書

心理職の役割の明確化と育成に関する研究（H26-特別-指定-011）

〔分担研究課題〕学部カリキュラム

分担研究者 大野博之（福岡女学院大学大学院 教授）

研究要旨

心理職役割の明確化と育成のモデルを模索する課題を検討するにあたって、現在の4年制大学における心理学関連の教育の実態を調査し、現在の学部教育の現状をまとめた。公益社団法人日本心理学会が認定する「認定心理士」カリキュラムを有する大学の中で、心理学関連科目を主な教育内容とする学部、学科・コース・専攻等181校を対象に調査を行った結果、心理職につながる教育内容をもつ心理系大学の定員が2万人を超え、教育に関わる教員のうち心理職専門家は臨床心理士有資格者が圧倒的に多いことが明らかになった。教育内容については、基礎心理学から応用心理学まで幅広く、心理職の専門家を育成するには、実習関連科目及び心の問題をもつ人たちに直接接する実践的カリキュラムが乏しいことが示された。結論として、心理職の専門家育成のためには、学部を基礎にしたより専門的な学びの課程が必要である。

A. 研究目的

学部における心理学関連の履修科目、単位、カリキュラム構成等を含めた教育体制を網羅的に調査し、心理職と関連する学部教育の実態を明らかにする。

B. 研究方法

1) 調査対象：文部科学省が平成26年度4月付でネット上に発表している全国の大学一覧（国公立・私立）<sup>1</sup>から、公益社団法人日本心理学会が認定する「認定心理士」カリキュラムを有する231大学（学部・学科・コース/専攻等）を選定した。「認定心理士」カリキュラム有無についてはネット上

に公開されている種々の受験者対象の大学案内から確認した。

2) データ収集方法：選定された231校に郵送による資料請求またはネット検索を通して資料を収集した。

3) データ分析対象：調査対象の231校のうち、心理学関連科目を主な教育内容とする学部、学科・コース・専攻等を抽出、181校（以下、心理系）の教育体制を分析対象とした。

C. 研究結果

1) 「認定心理士」カリキュラムを有する大学の現況

心理系を含む全体の大学の状況を表 1 に示した。

表1 認定心理士資格取得が可能な大学の現況

	大学数 (校)	学部学科 等数	定員 総数(名)
心理系	181	195	20,742
非心理系	48	70	6,580
通信制	2	-	2,000
合計	231	265	29,322

心理系大学だけで 2 万人を超える履修可能者がいることが示され、心理職につながる教育内容をもつ大学の多さがうかがえた。

## 2) 心理系大学の履修課程

大学修了のための卒業要件単位及び履修科目単位の内訳を表 1 に示した。

表2. 卒業要件履修単位(平均)

卒業要件 単位	共通教育科目 単位	専門科目 単位
123	34	89

履修課程における単位数は大学間に大きな差はみられなかった。

## 2) 代表的な履修科目の構成

心理系大学で開講されている心理学関連科目の単位の合計数が多い順から 30 科目を抽出した。科目名については大学によって同類でありながら名称が若干異なっていることから(例:心理学概論/心理学基礎/心理学総論等)それらについては類としてまとめた。

大学によって異なるが、3分の2以上の心理系大学で必須科目として配置した場合は「必須」、選択と必須が同程度の場合は「必須又は選択」、必須が半分を下回る場合は「選択」科目として区分した。

表3 心理学関連科目の構成

順位科目類	区分
1心理学概論類	必須
2心理学研究法	
3心理統計学類	
4臨床心理学	
5心理学実験	

6社会心理学	必須 又は 選択
7カウンセリング論類	
8認知心理学	
9発達心理学	
10心理検査法類	
11人格心理学類	選択
12精神医学類	
13心理療法論	
14教育心理学	
15学習心理学	
16生理心理学	
17障害者心理学類	
18健康心理学	
19人間関係論類	
20家族心理学	
21犯罪心理学	
22産業心理学	
23高齢者心理学類	
24生涯発達心理学	
25健康スポーツ心理学	
26学校心理学類	
27児童心理学類	
28精神保健概論	
29コミュニケーション論類	
30青年心理学類	

## 3) 代表的な履修科目の内容

表 3 の心理学関連科目の教育目標もしくは内容について複数のシラバスを総合し、その内容を表 4 にまとめた。

表4 代表的な科目の教育目標・内容

順位	科目名	教育目標・内容
1	心理学概論類	心理学の基礎的な考え方、理論、方法論を学ぶことを目的としている。具体的には、1)心理学における古典的な人間観を理解し、2)科学的方法論に根ざす心理学研究に親しみ、3)現代社会における様々な現象を心理科学の視点から批判的に分析し、社会生活を豊かにするために活用することを目的とする。
2	心理学研究法	心理学には、様々な研究分野や理論的な観点があるので、「心」という対象が多くの方法によって研究されている。心理学における研究の意味を正しく理解し、得られた知識を、卒業研究のために活用することを目標にしている。
3	心理統計学類	心理学研究において、実証研究では統計的な検討が不可欠であるため、心理統計の基礎知識、技術の習得を目標とする。心理学的研究には、さまざまな統計数値が用いられており、統計学の基礎的知識は心理学を学ぶ上での不可欠な素養となっている。
4	臨床心理学	臨床心理学は、人間の心理的な発達、適応、自己実現などの援助に関わる心理学の一分野領域である。こころに問題や悩みを抱えた方の理解・支援のために、臨床心理学における理論・アセスメント・介入法について学ぶ。

5	心理学 実験	「心」を測定するためのさまざまな方法を体験的に学ぶ。実験を通して得られたデータをまとめ(記述統計、表、グラフ)、人の心のはたらきや行動を説明したり解釈したりするためのデータの読み方を身に付ける。
6	社会 心理学	社会心理学は、人間の社会的行動に関する心理学的な法則を解明しようとする学問である。私たちの社会的行動に対する他者からの影響過程や所属する集団や組織からの影響過程を中心に「心の働き」を社会的文脈の中で考察することができる。
7	カウンセ リング 論類	言語、準言語、非言語の各コミュニケーション、カウンセリングの原理と主な理論と技法、学校、家庭、職場に関するカウンセリングを学ぶ。
8	認知 心理学	認知心理学は「認知」を対象とする心理学である。「認知」とは「認識」とほぼ同義で、事物や事象についての知識・情報を得るすべての過程を指す。認知心理学が扱うさまざまな行動について、行動が生じるメカニズムや認知処理の過程を学ながら、認知心理学的な行動理解の仕方について考えを深める
9	発達 心理学	主に発達初期から幼児期、児童期までの発達の様相・特徴について、種々の実験や研究知見を通して把握し、基本的な知識を学習する。発達心理学の方法、発達理論(発達観、発達段階、発達の原理など)について理解する。
10	心理検査 法類	代表的な心理テストについてその理論を理解し、実習を通して、心理アセスメントについて学習し、臨床心理学を修得するものにとって必要最低限の心理アセスメントの技法を体得する。
11	人格 心理学類	心理学においてこれまで性格がどのように扱われてきたか、その理論や方法論などを紹介し、性格についての基本的理解を目標とする。
12	精神 医学類	さまざまな精神疾患についての科学的な知識を習得すると同時に、精神疾患と社会や歴史との関係へと視野を広げ、精神障害をめぐり偏りのない見識を涵養する。
13	心理 療法論	心理療法とは、心理学の知見を主に使って、こころの問題からくる心身に生じる症状を改善しようとする方法の総称で、臨床心理学の実践において中心的な位置を占めるものである。心理療法についての主要な理論・方法論を概観するとともに、全体の共通概念について学ぶ。
14	教育 心理学	教育心理学の主要分野である「教える」「学ぶ」「発達する」「評価する」「個人的にふるまう」という教育心理学の諸領域を取り上げて、その領域における心理学的な課題と考え方を学ぶ。
15	学習 心理学	行動の獲得や変化の過程に関する条件づけの理論をベースにしながら、学習のしくみや思考・言語・記憶といった人間の認知システムについて理解する。
16	生理 心理学	様々な心理機能の基盤となる脳を中心とした生理学的メカニズムを取り上げる認知神経科学的視点から人間の行動のしくみを理解する。

17	障害者 心理学類	様々な障害の概念及びその分類や障害のメカニズムについて学び、心理的な特徴とその支援の方法について理解する。
18	健康 心理学	健康の維持と増進、疾病の予防と治療、ヘルスシステムや健康政策の分析や改善などに行動科学の知識と技術で関与する心理学の一領域で健康で幸福な人生を実現するため諸理論を学ぶ。
19	人間関 係論類	心理学の基礎理論をベースに実際の人間関係のメカニズムを理解し、人間関係を築くスキルを学ぶ。
20	家族 心理学	現代の家族の特徴や問題に関して理解し、家族が形成されてから発達して行く過程、その過程で生じうる心理臨床的問題、その問題への支援法を学ぶ。
21	犯罪 心理学	犯罪理論について、心理・生物・社会的観点から学ぶ。犯罪・非行の概況、事件処理の流れ、処遇機関、社会の犯罪者に対する感情など、社会的理解と実際の対応について学ぶ。
22	産業 心理学	組織や集団における行動の原理を理解し、リーダーシップ、職場適応、職業適性等について具体的に学ぶ。
23	高齢者 心理学類	高齢者の心理を理解するために、社会的側面や身体機能などについても知識を深め、高齢者と関わる上で必要な知識を習得することを目的とする。また、「喪失の時期」とも言われる高齢期の心理的な援助について学ぶ。
24	生涯発達 心理学	人間が生まれてから生を終えるまでの一生を視野に入れて発達を捉える「生涯発達心理学」の考え方や意義、価値を理解する。
25	健康ス ポーツ 心理学	スポーツ心理学の基礎的な知識を習得し、ライフサイクルに合わせた運動・スポーツの実践及び指導に活かせるようにする。
26	学校 心理学類	学校現場で生じている問題のうち、臨床心理学的支援が有効に働く課題について、その実態と支援の在り方を学ぶ。
27	児童 心理学類	胎児期から児童期までの各発達段階の主要な特徴を理解し、保育や教育実践や発達相談等に活かそうとする態度を形成する。
28	精神 保健類	医療や福祉で必要とされる精神保健の基礎的な知識を習得する。地域生活する精神障害者が抱える困難さとその支援について理解する。
29	コミュニ ケーション 論類	心理学の様々な理論を対人コミュニケーションに応用して学ぶことで、対人コミュニケーションのスキル向上を図る。
30	青年 心理学類	青年期心性を理解する上で、身体との関係、家族との関係、学校との関係、社会との関係の中で捉え、そこで生じる問題や病理について理解する。

#### 4) 教員の心理職資格所有現況

教員の専門性は教育内容と深い関係にあると考え、心理系大学の教員が有する心理職の資格を調査した結果を表 2 に示す。

表5 教員の心理職資格

臨床心理士	臨床発達心理士	学校心理士
634	50	(13)

「臨床心理士」・「臨床発達心理士」に関しては、会員に公開されている名簿と各大学教員名簿を照らし合わせて確認した。「学校心理士」(2011年現在 5,800名)<sup>2</sup>に関しては確認資料がなく、大学案内等に記載されたもののみが集計対象になった。臨床発達心理士が約3000名(2011年現在)<sup>3</sup>であることから照らし合わせると比率的に100人弱の数が推測される。

いずれにせよ、大学教育に関わる心理職専門家は「臨床心理士」が圧倒的に多いことが示された。

#### D. 考察

調査結果、多岐にわたる専門性の学部・学科・コース/専攻等で「認定心理士」のカリキュラムを導入、単位取得が可能にしている実態が浮き彫りになった。言い換えると、現在学部教育に多く取り入れられている「認定心理士」のカリキュラムに代表される教育内容では、心理職の性格が明確になりにくいといえる。

カリキュラム内容は基礎心理学から応用心理学に至るまで広く構成されている反面、現存する主な心理職を有する教員の数において「臨床心理士」が圧倒的に多い現状から、臨床心理学関係の科目が開講科目の中で大きい比重を示していることがうかがえた。このような現状は、160を超える臨床心理士養成指定大学院の存在と関連すると思われ、臨床心理士の育成が学部教育体制・内容等に大きく影響していることがうかがえる。

心理職の育成において、現在の学部教育の内容を概観すると、講義形態の開講科目が大半を占め、実習関連科目及び心の問題をもつ人たちに直接に触れて学ぶような機会が乏しい。

#### E. 結論

現在の学部教育のカリキュラム及び既存の心理職の実績を考慮すると、心理アセスメントや心理療法、カウンセリング等が心理職の固有の役割として挙げることができる。そのような役割を果たすにあたって、他の専門分野、たとえば、社会福祉関連の学部教育のモデル(図1)を考慮すると、心理職における学部教育のモデルは図2のように示すことができる。

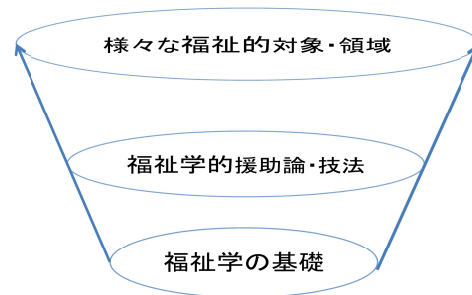


図1 社会福祉関連学部教育の体系例

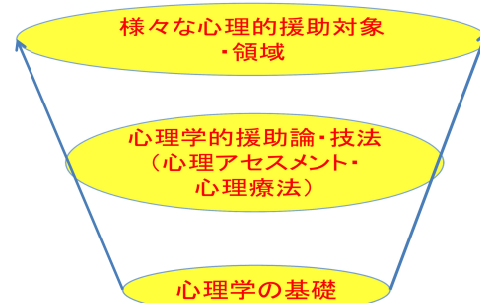


図2 心理職関連学部教育の体系

このような体系のもと、学部教育においてはその基礎の修得を目標とし、その上に

より専門的かつ実践的なインテンシブコースを設定することができれば、心理職の役割と育成の体系を明確にできるのではないかと思われる。

F. 健康危険情報 なし

G. 研究発表

1. 論文発表 なし
2. 学会発表 なし
3. その他 なし

H. 知的財産権の出願・登録状況 なし

『参考資料』

1. 文部科学省全国大学一覧：

<http://www.mext.go.jp/result.html?q=%E5%A4%A7%E5%AD%A6%E4%B8%80%E8%A6%A7>

2. 一般社団法人学校心理士認定運営機構：

<http://gakkoushinrishi.jp/>

3. 一般社団法人 臨床発達心理士認定運営機構：

<http://www.jocdp.jp/kiko/org/02.html>